



三重県初記録の魚類 16 種と既報種の再同定

笹木大地¹・木村清志²

Author & Article Info

¹ 三重県水産研究所 (志摩市)

sasaki.dobo@gmail.com (corresponding author)

² 三重大学 (津市)

kimura-s@bio.mie-u.ac.jp

Received 29 June 2026

Revised 08 July 2026

Accepted 08 July 2026

Published 09 July 2026

DOI 10.34583/ichthy.69.0_16

Daichi Sasaki and Seishi Kimura. 2026. First records of 16 fish species from Mie Prefecture, Japan, with reidentification of previously reported species. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 69: 16–29.

Abstract

Mie Prefecture is located in the central part of Honshu Island, Japan. In recent fish faunal study in this region, 1,472 species were reported. After that, the following five species have been recorded as fishes occurring in Mie Prefecture based on the recent literature: *Rhynchobatus australiae* Whitley, 1939; *Acanthonus armatus* Günther, 1878; *Stegastes albifasciatus* (Schlegel and Müller, 1840); *Exallias brevis* (Kner, 1868) and *Chromileptes altivelis* (Valenciennes, 1828). To date, total 1,477 fish species recorded in Mie Prefecture. In this study, the following 16 species represent new records from the prefecture: *Narцetes lloydii* Fowler, 1934, *Myripristis botche* Cuvier, 1829, *Amioides polyacanthus* (Vaillant, 1877), *Ostorhinchus holotaenia* (Regan, 1905), *Eurypegасus draconis* (Linnaeus, 1766), *Trachyrhamphus bicoarctatus* (Bleeker, 1857), *Pseudorhombus levisquamis* (Oshima, 1927), *Acanthoplesiops psilogaster* Hardy, 1985, *Chromis chrysura* (Bliss, 1883), *Chromis mirationis* Tanaka, 1917, *Scartella emarginata* (Günther, 1861), *Pseudanthias rubrizonatus* (Randall, 1983), *Coris aygula* Lacepède, 1801, *Lutjanus malabaricus* (Bloch and Schneider, 1801), *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 and *Lethrinus xanthochilus* Klunzinger, 1870. Of these, *Amioides polyacanthus*, *Lutjanus malabaricus*, *Lethrinus olivaceus*, and *Lethrinus xanthochilus* represent the northernmost records of the species. Previously, only photographic records existed for *Gymnothorax berndti* Snyder, 1904 and *Pseudorhombus arsius* (Hamilton, 1822) from Mie Prefecture. However, specimens of these species were obtained during the present study; thus, this study constitutes the first specimen-based records of the species from the prefecture. As a result of the reidentification, records of *Cypselurus naresii septentrionalis* Shakhovskoy and Parin, 2024 and *Etelis boweni*

Andrews, Fernandez-Silva, Randall and Ho, 2021 are found to be misidentified, and these two species are removed from the list of fishes from Mie Prefecture. Based on these findings, the number of fish species recorded from Mie Prefecture now stands at 1,491.

三重県は本州中部、紀伊半島東岸に位置し、南北約 170 km、東西約 80 km と南北に細長い地形を有している。県北部は伊勢湾、南部は北西太平洋の一部である熊野灘に面し、その海岸線は長く 1,083 km に達している。三重県における魚類相の研究は松原ほか (1951)、片岡・富田 (1981)、鈴木・片岡 (1997)、木村・笹木 (2025) などがあり、もっとも新しい木村・笹木 (2025) では海水魚と淡水魚を合わせて 1,472 種が報告された。これ以降も、それまで三重県から記録がなかった種が複数採集、あるいは写真撮影され、さらに三重大学大学院生物資源学研究科に保管されている魚類標本を再調査した結果、これまでに三重県から報告がなかった種に同定される標本があった。これらの標本や写真記録は合計 16 種に達した。一方で木村・笹木 (2025) が報告した魚類の中に誤同定の可能性がある種が複数存在したため、標本や写真を精査し再同定を行った。これらの結果をここに報告する。

材料と方法

標準体長は体長または SL (standard length)、全長は全長または TL (total length) と表記した。計測はノギスを用いておこなった。科の配列と各種の学名は本村 (2026) にしたがった。分布の項には国内のこれまでの記録を記載した。本研究に用いた標本は三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本 (FRLM) として保管されている。

三重県初記録の魚類

ウツボ科 Muraenidae

Gymnothorax berndti Snyder, 1904

ハワイウツボ (Fig. 1A)

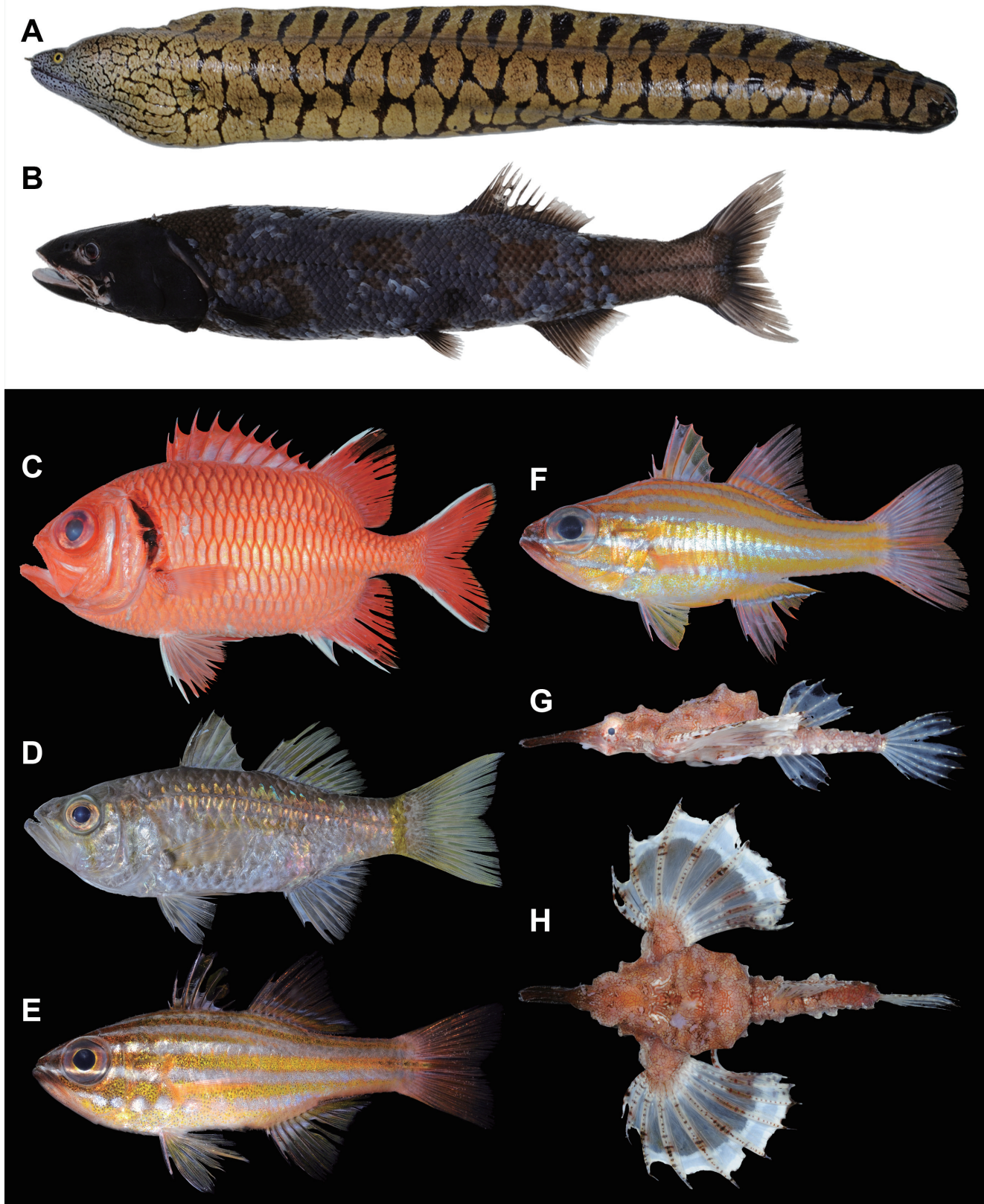


Fig. 1. Fishes recorded from Mie Prefecture, Japan. A: *Gymnothorax berndti*, FRLM 65855, 585 mm TL (caudal regeneration); B: *Narcetes lloydi*, FRLM 66436, 453 mm SL; C: *Myripristis botche*, FRLM 66447, 185 mm SL; D: *Amioides polyacanthus*, FRLM 66439, 166 mm SL; E: *Ostorhinchus holotaenia*, FRLM61665, 51 mm SL; F: *Ostorhinchus wassinki*, FRLM 66141, 49 mm SL; G and H: *Eurypegasus draconis*, FRLM 65857, 62 mm SL.

標本 FRLM 65855, 全長 585 mm (尾部再生), 肛門前長 352 mm, 南伊勢町賛浦 (34°14.9'N, 136°33.5'E), 定置網, 2025 年 5 月 14 日, 笹木大地.

分布 相模湾, 三重県尾鷲, 和歌山県南部, 沖縄諸島,

尖閣諸島に分布する (波戸岡, 2013; 田代, 2014; 本田ほか, 2024; 日比野, 2025).

備考 本種はオキノシマウツボ *Gymnothorax ypsilon* Ha-tooka and Randall, 1992 に似るが, 本標本は頭部に斑紋があ



Fig. 2. Poorly preserved holotype of *Narcetes lloydi*, USNM 92335. A: anterior head (left) and lower jaw (right); B: in a bottle. Courtesy of the National Museum of Natural History, Smithsonian Institution.

ること、体側の横帯の太さが不規則であること、臀鰭基部で前後の横帯はつながることが、波戸岡（2013）が示したハワイウツボの特徴と一致したため、本種に同定された。

三重県からの記録は尾鷲市尾鷲港に水揚げされた写真に基づく記録のみであったため（日比野，2025），本標本は本種の標本に基づく三重県からの初記録となる。

セキトリイワシ科 Alepocephalidae

Narcetes lloydi Fowler, 1934

クログチイワシ (Fig. 1B)

標本 FRLM 66436, 66437, 2 標本，体長 453–524 mm，志摩市志摩町和具沖，水深 940 m，釣り，2026 年 2 月 1 日，遊漁船トロ丸。

分布 相模湾，土佐湾，沖縄舟状海盆に分布する（中坊・甲斐，2013）。

備考 本標本は鰓耙数が $5-6 + 1 + 14-16 = 20-23$ であること，縦列鱗数が 60–70 であること，側線有孔鱗数が 55–60 であること，鰓条骨数が 7–8 であること，胸鰭条数が 8–9 であること，頭部一面に多数の感覚孔があること，臀鰭始部が背鰭基底後半下にあることが，Sazonov and Ivanov (1980)，Sazonov (1998) および中坊・甲斐 (2013) が示したクログチイワシ *Narcetes lloydi* の特徴と一致したため，本種に同定された。

本種はフィリピン東岸の水深 1304 m の地点から採集された 1 個体に基づいて Fowler (1934) によって記載された。原記載には，この標本は保存状態が悪く壊れていると記述され，体長は 470 ? mm と正確な値が記されてい

ないが，全形の線画が掲載されている。現在のこの標本 (USNM 92335) は大きく壊れていてほとんど原形をとどめていない (Fig. 2)。 *Narcetes lloydi* が記載された翌年に *Narcetes wonderi* Herre, 1935 が相模湾産標本 1 個体に基づいて記載された (Herre, 1935)。本名義種の原記載にはホロタイプ (CAS-SU 13907) の図や写真は掲載されていないが，現在ホロタイプの写真はカリフォルニア科学アカデミーのウェブサイトから閲覧可能である (URL)。その後 Okamura (1984) は沖縄舟状海盆や土佐湾から得られた 48 個体に基づき，*N. lloydi* や *N. wonderi* の原記載との比較から *Narcetes kamoharai* Okamura, 1984 を記載した。Sazonov (1988) はこれら 3 名義種のタイプ標本および多数のノンタイプ標本に基づいて，これらの形態に違いが無いことを示した。また Sazonov (1988) は Fowler の測定値は一般に信頼度が低いこと，Herre (1935) による *N. wonderi* の頭長／吻長比の値は誤りであることを示し，Okamura (1984) が *N. kamoharai* と *N. wonderi* との違いに用いた頭長／吻長比の説明も誤りであるとした。この Herre (1935) による頭長／吻長比の値が誤りであることは *N. wonderi* のホロタイプ写真からも明らかである。

Narcetes lloydi ホロタイプの図 (Fowler, 1934: fig. 16) では下顎が上顎よりもわずかに突出しており，原記載にもそのように書かれている。一方 *N. wonderi* や *N. kamoharai* のホロタイプの写真，および *N. lloydi* の線画 (Sazonov and Ivanov, 1980: fig. 7b) では両顎の先端はほぼ同位置で，ここで用いた三重県産の標本でもほぼ同位置である。この上顎と下顎の位置については Sazonov (1998) も Okamura (1984) も全く言及していない。 *Narcetes lloydi* ホロタイ

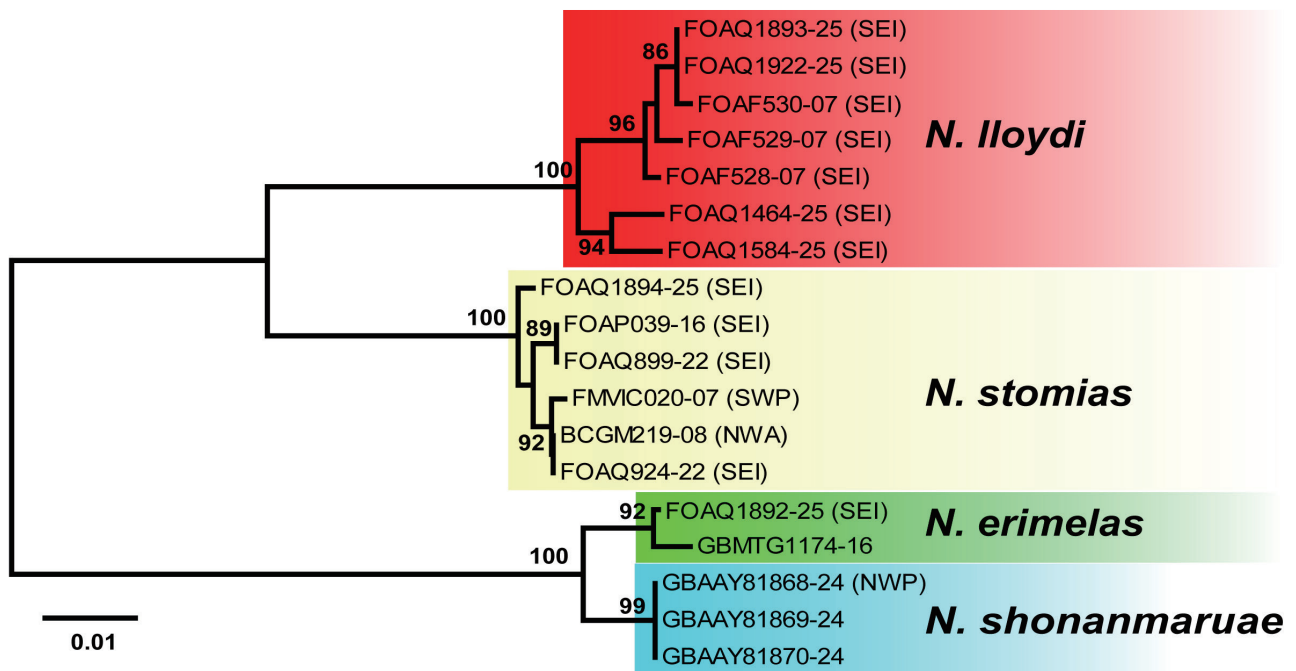


Fig. 3. Neighbor-joining (NJ) tree of the genus *Narcetes* based on COI sequences (650 bp) downloaded from BOLD SYSTEMS. Figures beside major internal branches indicate ML bootstrap values ($\geq 80\%$). NWA, Northwest Atlantic Ocean; NWP, Northwest Pacific Ocean; SEI, Southeast Indian Ocean; SWP, Southwest Pacific Ocean.

プの写真 (Fig. 2A) から下顎長に対する上顎長の比は 88.1%, 体長が近似している FRLM 66437 (453 mm SL) では 88.4% とほぼ同じ値を示した。もちろんこの値は両顎先端の位置を示すものではないが、特に *N. lloydi* ホロタイプの下顎が長いということはないと考えられる。

BOLD SYSTEMS から得たクログチイワシ属 *Narcetes* Alcock, 1890 の cytochrome c oxidase subunit I (COI) 配列に基づいて、MEGA12 (Kumar et al., 2024) を用いて近隣結合法で作成した系統樹を Fig. 3 に示した。本属の有効種と考えられる 4 種 (Sazonov, 1998; Fujiwara et al., 2021), *Narcetes erimelas* Alcock, 1890, クログチイワシ, ヨコヅナイワシ *Narcetes shonanmaruae* Poulsen, Ida, Kawato and Fujiwara, 2021 およびソコクログチイワシ *Narcetes stomias* (Gilbert, 1890) はそれぞれ独立したクレードを形成している。このうちクログチイワシのクレードは枝長が 0.02 程度で 2 つのサブクレードに分けられる。この枝長は *N. erimelas* とヨコヅナイワシとの枝長とほぼ等しいことから、クログチイワシには 2 種が混在している可能性もある。

イトウダイ科 Holocentridae

Myripristis botche Cuvier, 1829

ウロコマツカサ (Fig. 1C)

標本 FRLM 66446–66448, 3 標本, 体長 179–196 mm,

御浜町阿田和 2 号漁場 (33°46'N, 136°04'E), 定置網, 2026 年 2 月 22 日, 笹木大地。

分布 八丈島, 小笠原諸島, 相模湾, 和歌山県から九州太平洋岸, 鹿児島県東シナ海, 大隅諸島以南に分布する (林, 2013a; 西山, 2013; 江口・本村, 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 村瀬ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 和田, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 甲斐・御所, 2025)。

備考 本標本は下顎に 2 対の歯塊をもつこと, 胸鰭腹部に小鱗がないこと, 側線鱗数が 28 であること, 鰓蓋上端から胸鰭腹部が暗赤色であること, 鰓耙数が 10–11 + 23–26 = 34–36 であること, 背鰭・臀鰭軟条, 尾鰭両葉の先端が黒いことなどが, Randall and Greenfield (1996) および林 (2013a) が示したウロコマツカサ *Myripristis botche* の特徴と一致したため, 本種に同定された。

テンジクダイ科 Apogonidae

Amioides polyacanthus (Vaillant, 1877)

オニシモチ (Fig. 1D)

標本 FRLM 66439, 体長 166 mm, 尾鷲市早田 (33°59.6'N, 136°16.7'E), 水深 70 m, 定置網, 2026 年 2 月 20 日,

中井恭佑.

分布 大隅諸島硫黄島, 奄美大島, 沖縄島, 慶良間諸島, 石垣島から記録されていた(林, 2013c; 吉田, 2013, 2018; Nakae et al., 2018; Jeong and Motomura, 2021; 小枝ほか, 2024). 本標本は本種の分布北限記録ならびに本州からの初記録となる.

備考 本標本は両顎に大きな犬歯状歯があること, 第1背鰭が7棘であることなどが, 林(2013c)が示したオニイシモチの特徴と一致したため, 本種に同定された.

Ostorhinchus holotaenia (Regan, 1905)

スジオテンジクダイ (Fig. 1E)

標本 6標本(体長36–53 mm): FRLM 26731, 体長50 mm, 志摩市志摩町御座, 定置網, 2000年11月5日, 藤田和隆・伊與田慎右; FRLM 36698, 体長36 mm, 志摩市浜島町浜島, 定置網, 2010年8月19日, 日比野友亮・安井伸太郎・笹木大地・福岡佑太・片平和真; FRLM 36832, 体長39 mm, 志摩市志摩町御座, 定置網, 2010年10月6日, 笹木大地・安井伸太郎・日比野友亮; FRLM 61665, 体長51 mm, 尾鷲(34°03'N, 136°15'E), 定置網(柱掛定置), 2022年6月10日, 笹木大地; FRLM 65906, 体長49 mm, 南伊勢町賛浦(34°14.9'N, 136°33.5'E), 定置網, 2025年6月22日, 笹木大地・岡田 誠; FRLM 66118, 体長53 mm, 南伊勢町奈屋浦, 定置網, 2025年7月30日, 笹木大地.

分布 伊豆諸島, 千葉県館山湾から屋久島の太平洋沿岸, 福岡県沖ノ島, 長崎県香焼, 鹿児島県東シナ海に分布する(Yoshida et al., 2010; 林, 2013c; Motomura and Harazaki, 2017; 吉田, 2017, 2022; 小枝, 2018; 村瀬ほか, 2021; 村瀬ほか, 2023; 本田ほか, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 甲斐・御所, 2025).

備考 本種はキンセンイシモチ *Ostorhinchus wassinki* (Bleeker, 1860) によく似るが, 第5と第6橙黄色縦帯に挟まれる淡輝青色縦帯が斑点状で不連続であること(キンセンイシモチでは連続した一本の帯状)によって区別される(林, 2013c). 笹木(2025a)がキンセンイシモチとして掲載した標本(FRLM 61665)は淡輝青色縦帯が斑点状であることから本種の誤同定である. 一方で, 三重県尾鷲市九鬼から得られた2標本(FRLM 65324, 66141: 体長49–52 mm)は淡輝青色縦帯が連続した一本の帯状でありキンセンイシモチの特徴を有していることから(Fig. 1F), 三重県にはキンセンイシモチとスジオテンジクダイの両種が分布する. キンセンイシモチでは体側第4橙黄色縦帯が尾柄後端で終わることで, 尾柄を通過し, 尾叉付近まで延長するスジオテンジクダイと区別されるが(Yoshida et al., 2010; 林, 2013c), 三重県産のキンセンイシモチでは第4

橙黄色縦帯は尾叉付近まで達していた. Yoshida et al. (2010)が示したキンセンイシモチの写真(*Apogon cf properuptus* lined type として; fig. 22A)でも第4橙黄色縦帯は尾柄を通過し, 尾叉付近まで達していることから, この変異は種内変異と考えた. なお, 三重県ではスジオテンジクダイはおおむね水深25 m以深の定置網から, キンセンイシモチは水深約3–5 mから得られており, Yoshida et al. (2010)が述べたようにスジオテンジクダイの方が深い水深に生息すると思われる. なお, 木村・笹木(2025)の第2刷以降では, キンセンイシモチの写真として上記のFRLM 65324が使用されている.

ウミテング科 Pegasidae

Eurypegus draconis (Linnaeus, 1766)

ウミテング (Fig. 1G, H)

標本 FRLM 65857, 体長62 mm, 南伊勢町賛浦(34°16.8'N, 136°34.0'E), 定置網, 2025年5月21日, 笹木大地.

分布 伊豆諸島, 小笠原諸島, 茨城県那珂湊沖, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 山口県日本海沿岸, 長崎県おおび鹿児島県の東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 大隅諸島以南に分布する(瀬能, 2013a; 千葉, 2013, 2014; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 吉郷, 2018; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; 村瀬ほか, 2021, 2023; Jeong and Motomura, 2021; 田代, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 尾山・藍澤, 2024; Oyama et al., 2025).

備考 本標本は尾輪数が8であること, 体背面は起伏が大きく眼の直後に深い凹みがあること, 最終尾輪の背面に棘があることが, 瀬能(2013a)が示したウミテングの特徴と一致したため, 本種に同定された.

ヨウジウオ科 Syngnathidae

Trachyrhamphus bicoarctatus (Bleeker, 1857)

ワカヨウジ (Fig. 4A, B)

標本 FRLM 66240, 全長289 mm, 南伊勢町賛浦(34°14.9'N, 136°33.5'E), 定置網, 2025年12月5日, 阿部文彦.

分布 伊豆諸島, 小笠原諸島, 相模湾, 静岡県大瀬崎, 和歌山県串本, 高知県柏島, 薩摩半島, 屋久島, 琉球列島に分布する(瀬能, 2013b; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; 松 沼, 2018; Motomura and Uehara, 2020; 田代・山田, 2022; 本田ほか, 2024).

備考 本標本は躯幹輪数が23であること, 尾輪数が60であること, 吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より長いこと, 吻背面に小棘がなくなめらかであること, 躯幹部に小暗色斑点が散在することが, 瀬能(2013b)が示し

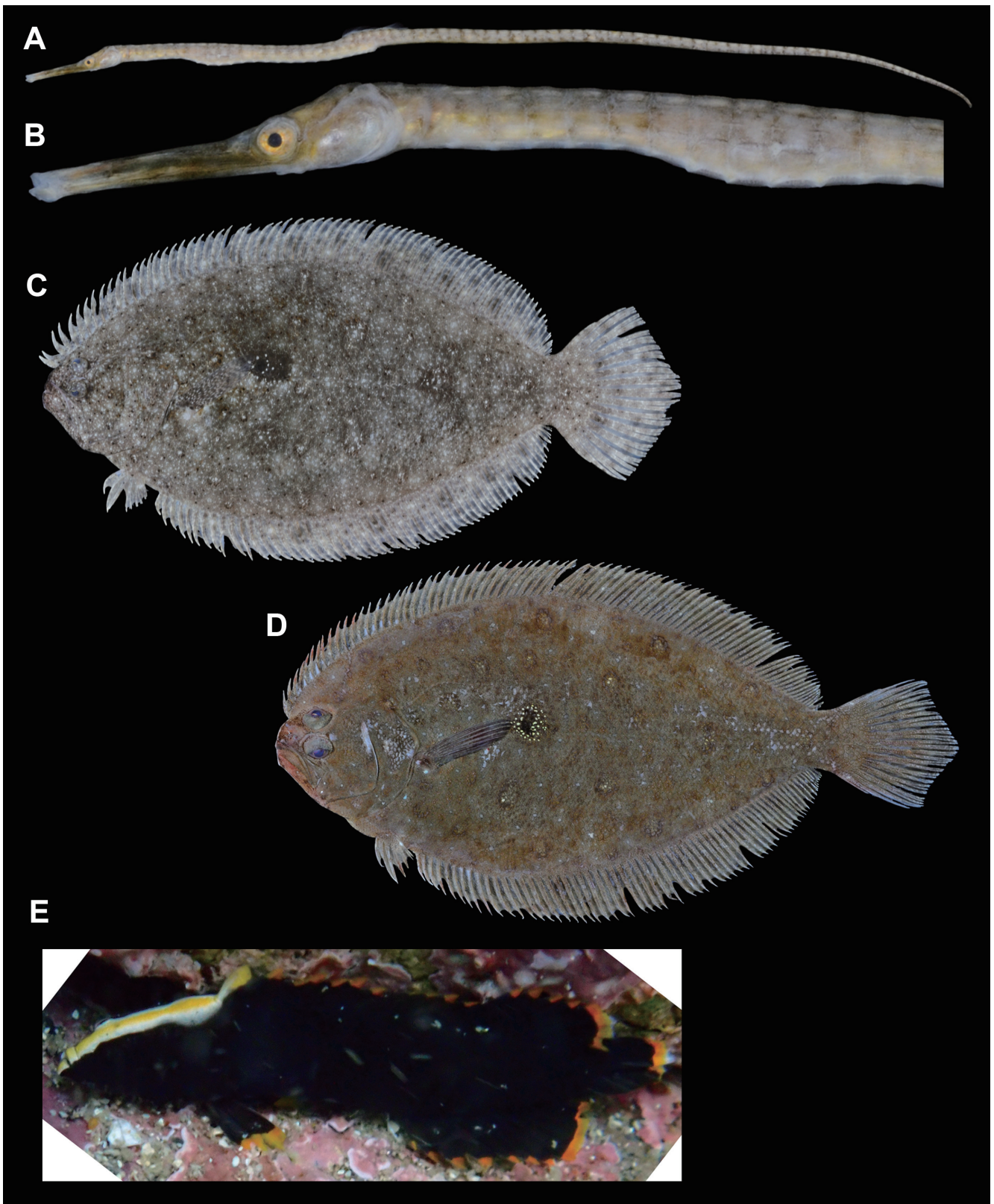


Fig. 4. Fishes recorded from Mie Prefecture, Japan. A and B: *Trachyrhamphus bicoarctatus*, FRLM 66240, 289 mm TL; C: *Pseudorhombus arsius*, FRLM 66130, 271 mm SL; D: *Pseudorhombus levisquamis*, FRLM 65327, 263 mm SL; E: *Acanthoplesiops psilogaster*, from underwater at Nakiri fishing port, photo by K. Oka.

たワカヨウジの特徴と一致したため、本種に同定された。

ヒラメ科 Paralichthyidae

Pseudorhombus arsius (Hamilton, 1822)

テンジクガレイ (Fig. 4C)

標本 3 標本 (体長 271–296 mm) : FRLM 65891, 体長 296 mm, 南伊勢町賛浦, 定置網, 2025 年 6 月 20 日, 笹木大地; FRLM 66129, 66130, 体長 271–294 mm, 南伊勢町賛浦, 定置網, 2025 年 8 月 22 日, 笹木大地。

分布 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 若狭湾, 福

岡山, 長崎県, 鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 種子島, 琉球列島に分布する (中坊・土居内, 2013b; 田城ほか, 2015; Iwatsuki et al., 2017; ジョン, 2017; 吉郷, 2018; Nakae et al., 2018; 畑, 2020; 村瀬ほか, 2021; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 中村ほか, 2024; 笹木, 2025b).

備考 本標本は背鰭が 70–75 軟条であること, 有眼側の側線上に 3 つの黒斑がある (ただし, 最後部のものは小さい) こと, 側線管が背腹方向に分枝すること, 下顎歯が犬歯状であることが, 尼岡 (2016) および Matsunuma et al. (2024, 2025) が示したテンジクガレイ *Pseudorhombus arsius* の特徴とおおむね一致したため本種に同定された。

三重県からの本種の記録は南伊勢町費浦に水揚げされた写真に基づく記録のみであったため (笹木, 2025b), 本標本は本種の標本に基づく三重県からの初記録となる。

Pseudorhombus levisquamis (Oshima, 1927)

タイワンガンゾウビラメ (Fig. 4D)

標本 FRLM 65327, 体長 263 mm, 御浜町阿田和 1 号漁場 (33°47'N, 136°03'E), 定置網, 2024 年 12 月 11 日, 笹木大地。

分布 相模湾, 和歌山県紀南, 土佐湾, 九州太平洋岸に分布する (大橋・本村, 2011; 中坊・土居内, 2013b; Iwatsuki et al., 2017; 畑, 2018b; 本田ほか, 2024)。

備考 本標本は側線湾曲部に 1 黒斑があること, 背腹両縁を除く有眼側の体側鱗が円鱗であることが, Matsunuma et al. (2024) が示したタイワンガンゾウビラメ *Pseudorhombus levisquamis* の特徴と一致したため, 本種に同定された。

タナバタウオ科 Plesiopidae

Acanthoplesiops psilogaster Hardy, 1985

フチドリタナバタウオ (Fig. 4E)

標本 なし。

写真記録 志摩市大王町波切漁港内, 2026 年 2 月 24 日, 岡 謙佑撮影。

分布 八丈島, 小笠原諸島, 相模湾, 駿河湾, 和歌山県白浜, 愛媛県室手, 甌島列島, 宇治群島, 大隅諸島, 奄美群島, 与那国島に分布する (林, 2013b; 吉田, 2014; Motomura et al., 2016; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Fujiwara and Shinohara, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 尾山・藍澤, 2025; 畠中ほか, 2025)。

備考 国内におけるフチドリタナバタウオ属 *Acantho-*

plesiops Regan, 1912 はフチドリタナバタウオおよびフカミフチドリタナバタウオの *Acanthoplesiops hardyi* Fujiwara and Shinohara, 2022 の 2 種が記録されている (Fujiwara and Shinohara, 2022)。本写真個体は下顎先端から上顎先端を通り, 背鰭始部にかけて白色から黄色を呈していることや, 各鰭条の縁辺が橙色であることが, 吉田 (2014) および Fujiwara and Shinohara (2022) が示したフチドリタナバタウオ *Acanthoplesiops psilogaster* の特徴と一致したため, 本種に同定された。

スズメダイ科 Pomacentridae

Chromis chrysura (Bliss, 1883)

アマミスズメダイ (Fig. 5A)

標本 FRLM 66142, 体長 95 mm, 尾鷲市九鬼 (34°00'N, 136°15'E), 水深 2–5 m, 釣り, 2025 年 9 月 12 日, 笹木大地・中村潤平。

分布 伊豆諸島, 豆南諸島, 小笠原諸島, 相模湾, 伊豆半島西岸, 和歌山県串本, 高知県柏島, 日向灘, 鹿児島県東シナ海, 宇治群島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する (青沼ほか, 2013; 岩坪, 2013, 2018, 2022; Kuriwa et al., 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 村瀬ほか, 2023; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 畠中ほか, 2025; 和田ほか, 2025)。

備考 本標本は背鰭軟条数が 14 であること, 体側の暗色と淡色の境界は背鰭基底後端より前であること, 側線有孔鱗数が 17 であることが, 青沼ほか (2013) が示したアマミスズメダイの特徴と一致したため, 本種に同定された。

Chromis mirationis Tanaka, 1917

トウカイスズメダイ (Fig. 5B)

標本 FRLM 65852, 体長 83 mm, 志摩市志摩町御座沖 (34°12'N, 136°45'E), 水深 68 m, 釣り, 2025 年 5 月 4 日, 笹木大地・前田隆平。

分布 相模湾, 伊豆大島, 伊豆半島, 和歌山県田辺湾, 高知県柏島, 五島列島, 奄美大島, 沖縄県, 沖縄舟状海盆に分布する (青沼ほか, 2013; Nakae et al., 2018; 佐藤ほか, 2023; 本田ほか, 2024; Aizawa et al., 2024)。

備考 本標本は体側の暗色縦帯が 1 本であること, 後鼻孔は大きくスリット状であること, 腹鰭は体長の 34.7% であること, 臀鰭第 2 棘長は体長の 20.1% であることが, 青沼ほか (2013) が示したトウカイスズメダイの特徴と一致したため, 本種に同定された。

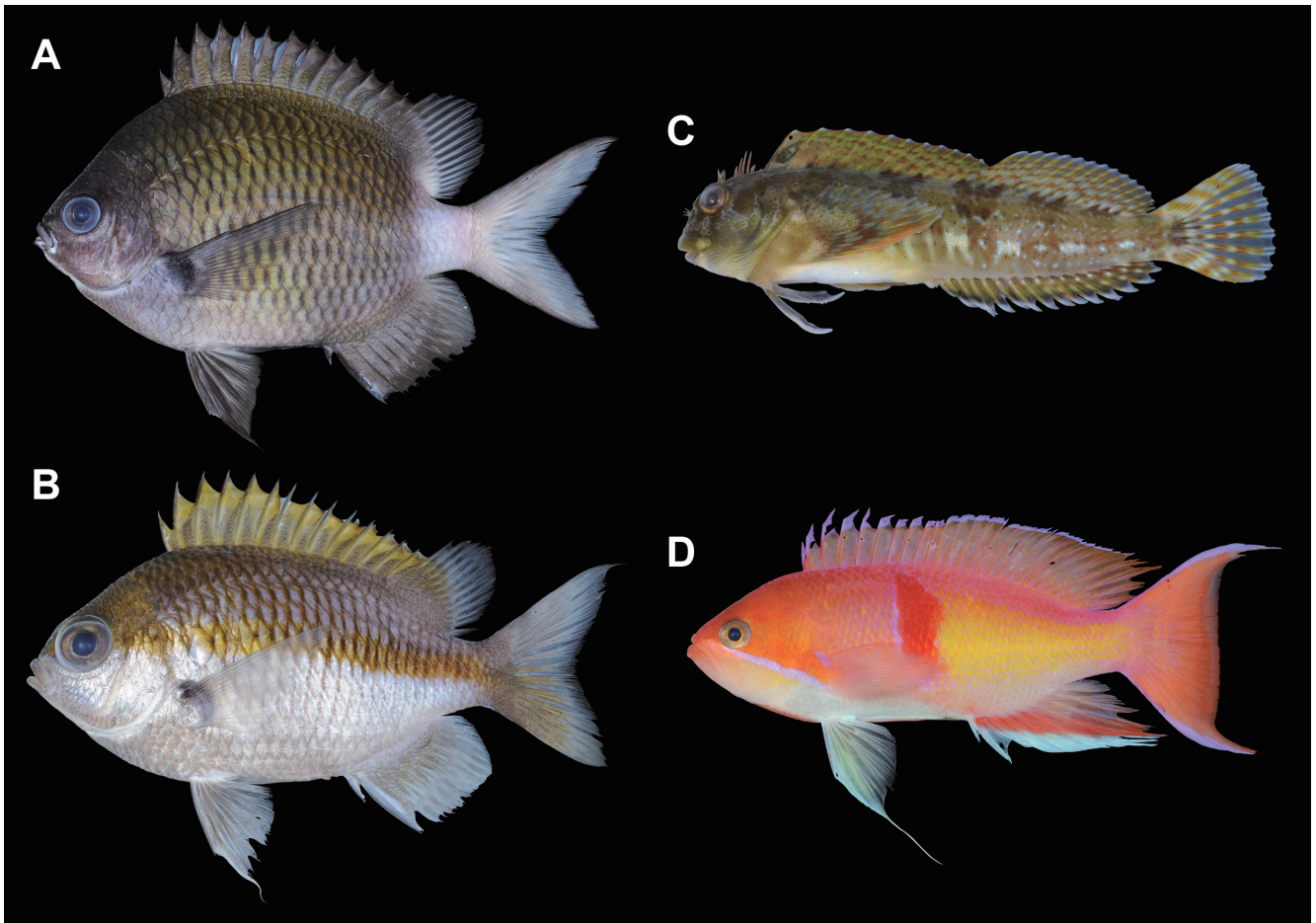


Fig. 5. Fishes recorded from Mie Prefecture, Japan. A: *Chromis chrysura*, FRLM 66142, 95 mm SL; B: *Chromis mirationis*, FRLM 65852, 83 mm SL; C: *Scartella emarginata*, FRLM 66270, 37 mm SL; D: *Pseudanthias rubrizonatus*, FRLM 66509, 85 mm SL.

イソギンポ科 Blenniidae

Scartella emarginata (Günther, 1861)

タテガミギンポ (Fig. 5C)

標本 8 標本 (体長 19–37 mm) : FRLM 66270–66272, 3 標本, 体長 19–37 mm, 志摩市志摩町片田, 麦崎灯台周辺 (34°15'N, 136°51'E), 水深 0.3 m, タモ網, 2025 年 12 月 17 日, 笹木大地; FRLM 66425, 66455–66458, 5 標本, 体長 20–36 mm, 志摩市志摩町片田, 麦崎灯台周辺 (34°15'N, 36°51'E), 水深 0.3 m, タモ網, 2026 年 1 月 31 日, 笹木大地.

分布 神奈川県, 静岡県, 和歌山県白浜, 高知県以布利, 柏島, 愛媛県室手, 日向灘, 薩摩半島に分布する (藍澤・土居内, 2013b; Iwatsuki et al., 2017; 村瀬ほか, 2021; 川間ほか, 2022; 工藤ほか, 2022; 本田ほか, 2024)

備考 本標本は頭部正中線に総状の皮弁があることが, 藍澤・土居内 (2013b) が示したタテガミギンポの特徴と一致したため, 本種に同定された.

ハナダイ科 Anthiadidae

Pseudanthias rubrizonatus (Randall, 1983)

アカオビハナダイ (Fig. 5D)

標本 FRLM 66509–66510, 2 標本, 体長 85–86 mm, 雄, 紀宝町鵜殿沖, 水深 30 m, 釣り, 2026 年 5 月 28 日, 南貴之.

分布 伊豆大島, 相模湾, 駿河湾, 和歌山県から九州南岸の太平洋沿岸, 山口県日本海側, 甕島列島, 屋久島, 奄美大島に分布する (瀬能, 2013c; Iwatsuki et al., 2017; 畑, 2017; Nakae et al., 2018; 本村・原崎, 2019; 園山ほか, 2020; 中村, 2022; 村瀬ほか, 2023; Koreeda and Motomura, 2025).

備考 本標本は体側に赤色横帯があること, 側線下方横列鱗数が 16–17 であることが, 瀬能 (2013c) が示したアカオビハナダイの雄の特徴と一致したため, 本種に同定された.

ベラ科 Labridae

Coris aygula Lacepède, 1801

カンムリベラ (Fig. 6A)

標本 FRLM 66171, 体長 295 mm, 志摩市大王町波切, 2025 年 9–10 月に波切市場に水揚げされた個体を 2025 年 10 月 24 日に活魚で購入, 笹木大地.

分布 伊豆諸島, 豆南諸島, 小笠原諸島, 茨城県 (幼

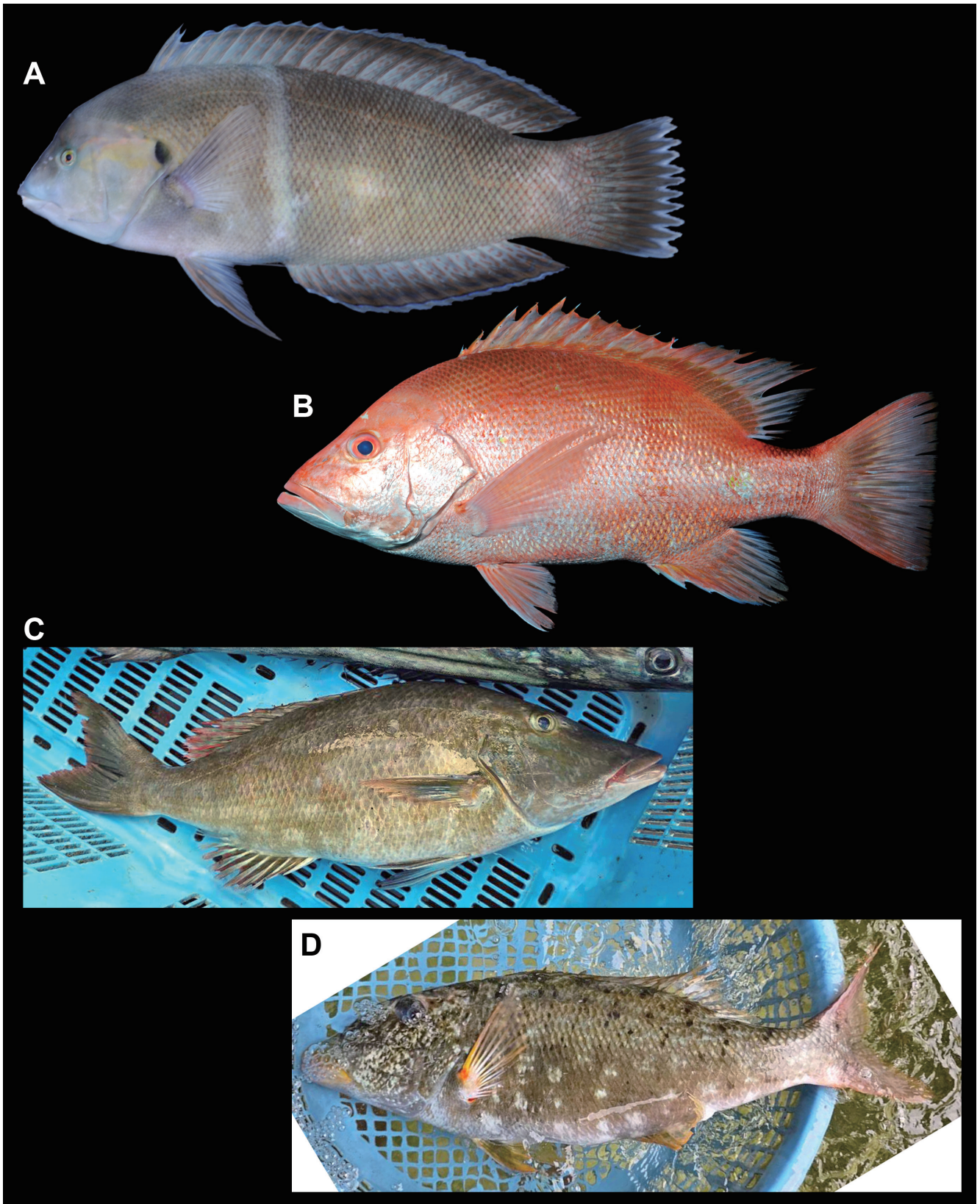


Fig. 6. Fishes recorded from Mie Prefecture, Japan. A: *Coris aygula*, FRLM 66171, 295 mm SL; B: *Lutjanus malabaricus*, FRLM 66494, 443 mm SL (mirror image); C: *Lethrinus olivaceus*, from Udono fishing port, photo by R. Higashi; D: *Lethrinus xanthochilus*, from Kuki fishing port, photo by H. Iwasaki.

魚), 相模湾, 静岡県富戸 (幼魚), 和歌山県串本, 高知県柏島, 日向灘, 薩摩半島, 男女群島 (幼魚), 大隅諸島以南, 南大東島, 尖閣諸島に分布する (島田, 2013c; 片山, 2013; Kuriwa et al., 2014; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017;

Nakae et al., 2018; 福井, 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 藤原ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 田代・古橋, 2022; 工藤ほか, 2022; 村瀬ほか, 2023; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; Aizawa et al., 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 和田ほか, 2025).

備考 本標本は後頭部が膨出すること、尾鰭各鰭条間の鰭膜は切れ込むことが、島田 (2013c) が示したカンムリベラの特徴と一致したため、本種に同定された。

フエダイ科 Lutjanidae

Lutjanus malabaricus (Bloch and Schneider, 1801)

ヨコフエダイ (Fig. 6B)

標本 FRLM 66494, 体長 443 mm, 御浜町阿田和 1 号漁場 (33°47'N, 136°03'E), 定置網, 2026 年 5 月 11 日, 東 諒輔。

分布 土佐湾, 長崎県, 鹿児島県内之浦, 琉球列島から記録されていた (島田, 2013a; Nakae et al., 2018; 畑, 2018a; 小枝, 2020; Hata et al., 2024)。本標本は本種の分布北限記録ならびに本州からの初記録となる。

備考 本種はワキグロアカフエダイ *Lutjanus timorensis* (Quoy and Gaimard, 1824) に似るが、本標本は尾柄部に暗色斑があること、胸鰭腋部は黒くないこと、臀鰭軟条数は 9 であることが、島田 (2013a) が示したヨコフエダイの特徴と一致したため、本種に同定された。

フエフキダイ科 Lethrinidae

Lethrinus olivaceus Valenciennes, 1830

キツネフエフキ (Fig. 6C)

標本 なし。

写真記録 御浜町阿田和 1 号漁場の定置網に入網し鶴殿漁港に水揚げされた個体, 2026 年 6 月 12 日, 東 諒輔撮影。

分布 宮崎県南部, 鹿児島県 (九州南部, 大隅諸島種子島, 奄美大島), 琉球列島であり (渋谷ほか, 2022), 本個体は本種の分布北限記録ならびに本州からの初記録となる。

備考 本写真個体の体長は撮影時のかごの大きさから換算すると約 460 mm である。本種はタチガミフエフキ *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867 に似るが、タチガミフエフキでは体長 240 mm 以上の個体で眼下部と主鰓蓋骨上方に小さな不定形の淡赤色域があり、成長にしたがって鰓蓋中央部まで拡がる (渋谷ほか, 2022)。しかし、本個体では眼下部、鰓蓋上部のいずれにも赤色域がみられないことからキツネフエフキに同定された。

Lethrinus xanthochilus Klunzinger, 1870

ムネアカクチビ (Fig. 6D)

標本 なし。

写真記録 尾鷲市九鬼の定置網に入網し九鬼漁港に水

揚げされた個体, 2025 年 10 月 5 日, 岩崎 肇撮影。

分布 小笠原諸島, 種子島, 与論島, 奄美大島, 沖縄島以南であり (島田, 2013b; 木村, 2014; Koeda et al., 2016; Nakae et al., 2018; 武藤, 2018; 田中ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Motomura, 2023), 本個体は本種の分布北限記録ならびに本州からの初記録となる。

備考 本種はホオアカクチビ *Lethrinus rubrioperculatus* Sato, 1978 に似るが、この写真個体は頬部に多数の暗色斑点があること (ホオアカクチビにはない), 上唇が黄色であること (黄色ではない), 胸鰭基部下半分が赤色であること (赤色斑はない), 主鰓蓋骨縁辺に赤色斑がないこと (ある) が, Carpenter and Allen (1989) および島田 (2013b) が示したムネアカクチビ *Lethrinus xanthochilus* の特徴と一致したため、本種に同定された。

既報告種の再同定

木村 (2025d: 248) がウチダトビウオ *Cypselurus nareisii septentrionalis* Shakhovskoy and Parin, 2024 とした標本 [FRLM 38874; 木村 (2025d) では学名を *Cypselurus nareisii* (Günther, 1889) と表記] を藍澤・土居内 (2013a) および Shakhovskoy and Parin (2024) にしたがって同定したところ、側線鱗数が 53, 背鰭前方鱗数が 32, 下枝鰓耙数が 22 などの特徴によりホソトビウオ *Cypselurus hiraii* Abe, 1953 に再同定された。また、志摩市志摩町御座の定置網で得られ、これまでウチダトビウオとされていた稚魚標本 (FRLM 14396, 33 mm SL) は背鰭条数 12, 臀鰭条数 9, 胸鰭条数 16, 鰓耙数 $6 + 22 = 28$, 下顎先端のひげ状器官は 1 基で黒く、後端は眼の前縁下に達することなどの特徴をもち、Shakhovskoy and Parin (2024) にしたがってホソトビウオ *C. hiraii* に同定された。以上のことから、ウチダトビウオは三重県から未確認となる。

笹木 (2025c: 378) によってオオアカムツ *Etelis boweni* Andrews, Fernandez-Silva, Randall and Ho, 2021 とされた写真個体は、尾鰭上葉先端が黒くないこと、側線下方横列鱗数が約 12 であることが、Andrews et al. (2021) およびジョンほか (2023) が示したオオアカムツ *E. boweni* の特徴とは一致しない。さらに、畑ほか (2015) によると、オオクチハマダイ *Etelis radiosus* Anderson, 1981 の尾鰭はオレンジがかった赤色であり、本個体の尾鰭下葉の色彩はジョンほか (2023) が示したハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus* Cuvier, 1828 の特徴に一致する。しかし、本個体にみられる尾鰭中央部の凹みは Anderson and Allen (2001) が示したオオクチハマダイの特徴である。これらのことから、この個体を写真から正確に同定することは困難である。また、武内 (2025a: 379) がハチジョウアカムツとした写真個体も同様に正確な同定は困難である。しかし、ハチジョウアカムツは志摩市志摩町和具から得られた標本 (FRLM



Fig. 7. Preserved specimen of *Etelis carbunculus* collected from Mie Prefecture, Japan (FRLM 4123, 308 mm SL).

4123, 体長 308 mm ; Fig. 7) があることから, 本種は三重県に分布する。したがって, 三重県からのハマダイ属 *Etelis* Cuvier, 1828 の記録はハチジョウアカムツおよびオオクチハマダイの 2 種である (武内, 2025b ; 本研究)。

木村 (2025c: 193) でオオメメダイ *Ariomma luridum* Jordan and Snyder, 1904 として掲載された写真のうち小型個体 (FRLM 61657, 体長 38 mm) を Last (2001) および畑・本村 (2018) にしたがって同定したところ, 前鰓蓋骨屈曲部が後方に伸長すること (オオメメダイでは後方に伸長しない) からミナミメダイ *Ariomma brevipinnatum* (Klunzinger, 1884) に再同定された。なお, 木村 (2025b; c) が記述したミナミメダイとオオメメダイの眼の大きさは両種で逆になっており, ミナミメダイでは眼は小さく頭長の 1/4 以下, オオメメダイでは眼は大きく頭長の約 1/3 が正しい (中坊・土居内, 2013a)。ただし, ミナミメダイの眼の大きさは成長に伴って小さくなることが知られており, 体長 98.4 mm の個体では頭長に対する眼径の割合は 27.6% である (畑・本村, 2018)。

木村 (2025a: 99) で *Synodus pacificus* Ho, Chen and Shao, 2016 (アカエソ属の一種 1) として掲載された種は Furuhashi and Motomura (2026) によって標準和名オメガエソが提唱された。

このほか木村・笹木 (2025) には次のような誤記があったのでここで修正する。テングノオトシゴ *Pegasus later-narius* Cuvier, 1829 の標本写真 FRLM 55093 (p. 175, マレーシア産) は別種の *Pegasus nanhaiensis* Zhang, Wang and Lin, 2020。第 2 刷以降で掲載した写真 KAUM-I. 169681 は鹿児島県産のテングノオトシゴ。アオハタ *Epinephelus awoara* (Temminck and Schlegel, 1843) の命名者と年号は (Forsskal, 1775) ではなく, (Temminck and Schlegel, 1843) が正しい (p. 280, 第 3 刷では修正済み)。マダイ *Pagrus major* (Temminck and Schlegel, 1843) の臀鰭条数 9 は誤りで 8 が正しい (p. 409, 第 2 刷以降で修正済み)。マンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758) の図の説明がウシマンボウと誤記, 正しくはマンボウ (p. 427, 第 3 刷で修正済み)。

考 察

本研究により 16 種が新たに三重県から記録され, さらにハワイウツボとテンジクガレイの 2 種は標本に基づいて

初めて記録された。また, このうちオニシモチ, ヨコフエダイ, キツネフエフキ, ムネアカクチビの 4 種は北限記録となる。一方で, ウチダトビウオはホソトビウオに再同定された。加えてオオアカムツは暫定的にハチジョウアカムツあるいはオオクチハマダイにそれぞれ再同定されたため, この 2 種については三重県での確実な記録がないことになる。また, 木村・笹木 (2025) 以降に, 三重県からはトンガリサカタザメ *Rhynchobatus australiae* Whitley, 1939 が尾鷲市早田浦から (喜屋武ほか, 2026), ハナトゲアシロ *Acanthonus armatus* Günther, 1878 が三重県の熊野灘沖合から (饗場ほか, 2026), キオビスズメダイ *Stegastes albifasciatus* (Schlegel and Müller, 1840) が尾鷲市九鬼から (久保ほか, 2025), サラサハタ *Chromileptes altivelis* (Valenciennes, 1828) が鳥羽市菅島沖から (森滝, 2025) それぞれ記録されている。なお, 木村・笹木 (2025) では掲載されていなかったが, セダカギンポ *Exallias brevis* (Kner, 1868) が熊野市二木島から記録されていた (大西, 2025)。以上により, 三重県からは木村・笹木 (2025) が報告した, 1,472 種から 2 種が除外され, 上述の 21 種が追加されたため, 三重県からは 1,491 種が記録されていることとなる。

謝 辞

本研究に用いた標本の収集に際して, 阿田和大敷漁業生産組合の皆様, 株式会社早田大敷の中井恭佑氏, 賛浦大敷株式会社の皆様, 大高屋商店の矢野太朗氏, 紀南漁協の南 貴之氏, 三重県志摩市の遊漁船トロ丸, 三重県四日市市在住の前田隆平氏, いおワールドかごしま水族館の中村潤平氏, 三重県水産研究所の阿部文彦氏の協力を得た。阿田和大敷漁業生産組合の東 諒輔氏, 岩崎魚店の岩崎 肇氏, 三重県水産研究所の岡 謙佑氏には貴重な写真を提供いただいた。スミソニアン自然史博物館の Abigail J. Reft 氏と Diane Pitassy 氏には *Narcetes lloydi* のホロタイプの写真を提供いただいた。上記の中村順平氏, 岩手大学の下瀬環氏, 海洋生物環境研究所の吉田朋弘氏, 鹿児島大学総合研究博物館の本村浩之氏, 神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏氏, 京都大学の松沼瑞樹氏, 三重県水産研究所の岡田 誠氏には同定に関する多大なる助言をいただいた。上記の和田英敏氏, 京都大学の甲斐嘉晃氏および松沼瑞樹氏には文献を提供いただいた。匿名の査読者と Ichthy 担当編集委員の是枝伶旺氏には本稿の改訂にあたり適切な指摘をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

引用文献

- 饗場空璃・荒木公輔・澤田尚磨・遠藤広光. 2026. 日本におけるハナトゲアシロ科 (新称) ハナトゲアシロの追加記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 68: 20–27.
- 藍澤正宏・土居内龍. 2013a. トビウオ科, pp. 655–664, 1928–1933. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学

- 出版会, 秦野.
- 藍澤正宏・土居内龍. 2013b. イソギンポ科, pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Aizawa, M., K. Koeda, H. Hata, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2024. Fish types deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo – Part 5: Percoidei, Stromateoidei, Labroidei, Zoarcoidei, Trachinoidei, Blennioidei, Gobiesocoidae, and Callionymidae. The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports, 132: 253–327.
- 尼岡邦夫. 2016. 日本産ヒラメ・カレイ類. 東海大学出版部, 平塚. x + 229 pp.
- Anderson, W. D., Jr. and G. R. Allen. 2001. Lutjanidae. Snappers (jobfishes), pp. 2840–2918. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Andrews, K. R., I. Fernandez-Silva, J. E. Randall and H.-C. Ho. 2021. *Etelis boweni* sp. nov., a new cryptic deepwater eteline snapper from the Indo-Pacific (Perciformes: Lutjanidae). Journal of Fish Biology, 99: 335–344.
- 青沼佳方・吉野哲夫・柳下直己. 2013. スズメダイ科, pp. 1029–1066, 2033–2036. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Carpenter, K. E. and G. R. Allen. 1989. FAO species catalogue. Vol. 9. Emperor fishes and large-eye breams of the world (family Lethrinidae). An annotated and illustrated catalogue of lethrinid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, No. 125: i–v + 1–118, pls. 1–8.
- 千葉 悟. 2013. ウミテング, p. 31. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 千葉 悟. 2014. ウミテング, p. 101. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 江口慶輔・本村浩之. 2016. 琉球列島におけるイトウダイ科魚類相. Nature of Kagoshima, 42: 57–112.
- Fowler, H. W. 1934. Descriptions of new fishes obtained 1907 to 1910, chiefly in the Philippine islands and adjacent seas. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 85: 233–367.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 14: 1–73.
- Fujiwara, K. and G. Shinohara. 2022. Description of a new species of *Acanthoplesiops* (Plesiopidae: Acanthoclininae) from the Kerama Islands, Ryukyu Islands, southern Japan. Ichthyological Research, doi.org/10.1007/s10228-022-00896-9 (Oct. 2022), 70: 353–358 (July 2023).
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2021. 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 30–40.
- Fujiwara, Y., M. Kawato, J. Y. Poulsen, H. Ida, Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi, K. Oguri, S. Gotoh, G. Ozawa, S. Tanaka, M. Miya T. Sado, K. Kimoto, T. Toyofuku and S. Tsuchida. 2021. Discovery of a colossal slickhead (Alepocephaliformes: Alepocephalidae): an active-swimming top predator in the deep waters of Suruga Bay, Japan. Scientific Reports, 11: 2490.
- 福井美乃. 2018. ベラ科, pp. 253–278. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- Furuhashi, R. and H. Motomura. 2026. Additional records of *Synodus pacificus* (Teleostei: Aulopiformes) in the western Pacific Ocean. Aquatic Animals, 2026: AA2026-18.
- 畑 晴陵. 2017. ハタ科, pp. 116–125. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵. 2018a. フエダイ科, pp. 155–168. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- 畑 晴陵. 2018b. タイワンガンゾウビラメ, p. 439. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 黒潮あたる鹿児島湾の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵. 2020. テンジクガレイ, p. 520. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015. トカラ列島から得られたフエダイ科魚類オオクチハマダイ *Etelis radiusus*. Nature of Kagoshima, 41: 95–99.
- Hata, H., K. Koeda, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2024. Specimens of the family Lutjanidae (Actinopterygii: Teleostei) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports, 132: 149–167.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018. 高知県柏島と室戸市から得られたオオメダイ科魚類ミナミメダイ *Ariomma brevimanum* の記録. 四国自然史科学研究, 11: 10–15.
- 島中柚菜・中村潤平・土田洋之・松岡 翠・松本達也・古橋龍星・是枝伶旺・出羽優風・橋本慎太郎・畑瑛之郎・金井聖弥・佐藤智水・吉田卓史・有馬雄太・檜垣健介・池袋日香莉・栗山顕太・松村優花・本村浩之. 2025. 宇治群島から得られた初記録の魚類 73 種, および宇治群島周辺海域産魚類リスト. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 56: 8–30.
- 波戸岡清峰. 2013. ウツボ科, pp. 244–261, 1786–1792. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013a. イットウダイ科, pp. 579–591, 1897–1899. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013b. タナバタウオ科, pp. 811–814, 1975. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013c. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Herre, A. W. C. T. 1935. Notes on fishes in the Zoological Museum of Stanford University. II. Two new genera and species of Japanese sharks and a Japanese species of *Narcetes*. Copeia, 1935: 122–127.
- 日比野友亮. 2025. ハワイウツボ, p. 47. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.
- 岩坪洗樹. 2013. アマミスズメダイ, pp. 222–223. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 岩坪洗樹. 2018. スズメダイ科, pp. 216–246. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- 岩坪洗樹. 2022. スズメダイ科, pp. 174–185. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- ジョンビョル. 2017. ヒラメ科, pp. 265–267. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 16: 1–116.
- ジョンビョル・大富 潤・本村浩之. 2023. 鹿児島県大隅諸島から得られた北西太平洋初記録のフエダイ科魚類 *Etelis boweni* オオア

- カムツ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-018 (Mar. 2023), 70: 95–102 (Apr. 2023).
- 甲斐嘉晃・御所豊穂. 2025. 紀伊大島樫野・定置網の魚. 弁天前定置水産株式会社, 串本・京都大学フィールド科学教育研究センター, 京都. 112 pp.
- 片岡照男・富田靖男. 1981. 三重の魚類相. 三重県立博物館研究報告 自然科学, 3: 1–110.
- 片山英里. 2013. カムリベラ, pp. 255–256. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 川間公達・藤原恭司・是枝伶旺. 2022. イソギンポ科, pp. 225–231. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 木村清志. 2014. ムネアカクチビ, p. 257. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 木村清志. 2025a. アカエソ属の一種 1, p. 99. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 木村清志. 2025b. ミナミメダイ, p. 192. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 木村清志. 2025c. オオメメダイ, p. 193. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 木村清志. 2025d. ウチダトビウオ, pp. 248, 251. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 木村清志・笹木大地 (編). 2025. 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢. 470 pp.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 喜屋武樹・三澤 遼・北谷佳万. 2026. 標本に基づく三重県初記録のトンガリサカタザメ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 66: 25–29.
- 小枝圭太. 2018. スジオテンジクダイ, p. 214. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 黒潮あたる鹿児島湾の内浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020. ヨコフエダイ, p. 335. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 小枝圭太・平坂 寛・立原一憲・佐藤真央. 2024. 石垣島近海にて採集されたテンジクダイ科魚類の稀種オニシモチ. Fauna Ryukyuna, 70: 1–4.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 21: 1–119.
- 久保敦暉・津守優太・淀 太我. 2025. キオビスズメダイの三重県からの初記録および和歌山県からの標本に基づく初記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 25–28.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142.
- Kumar, S., G. Stecher, M. Suleski, M. Sanderford, S. Sharma and K. Tamura. 2024. Molecular Evolutionary Genetics Analysis Version 12 for adaptive and green computing. Molecular Biology and Evolution, 41: 1–9.
- Kuriwa, K., H. Arihara, S. N. Chiba, S. Kato, H. Senou and K. Matsuura. 2014. Checklist of marine fishes of the Zunan Islands, located between the Izu and Ogasawara (Bonin) islands, Japan, with zoogeographical comments. Check List, 10: 1479–1501.
- Last, P. R. 2001. Ariommatidae. Ariommas, pp. 3780–3783. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals. FAO, Rome.
- 松原喜代松・岡田彌一郎・鈴木 清・橋本太郎. 1951. 円口類・魚類, pp. 19–43. 三重県生物調査委員会 (編) 三重県産生物目録. 三重県生物調査委員会, 津.
- 松沼瑞樹. 2018. ヨウジウオ科, pp. 54–58. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- Matsunuma, M., S. Kanai, Y. G. Seah, F. Tashiro and H. Motomura. 2025. Resurrection of the five-ocellated left-eye flounder *Pseudorhombus ocellifer* Regan 1905 (Paralichthyidae), with redescription of *Pseudorhombus pentophthalmus* Gunther 1862 and *Pseudorhombus oculocirris* Amaoka 1969. Ichthyological Research, doi.org/10.1007/s10228-025-01019-w (Mar. 2025), 70: 28–70 (Jan. 2026).
- Matsunuma, M., F. Tashiro and H. Motomura. 2024. First Japanese records of the flounders *Pseudorhombus elevatus* and *P. quinqueocellatus* (Teleostei: Paralichthyidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands. Species Diversity, 29: 9–21.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 10: 1–80.
- 森滝丈也. 2025. 鳥羽市菅島沖で採集されたサラサハタ. 鳥羽水族館年報, 21: 34–35.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanaga-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 39. [URL](#)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. Memoirs of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 64: 10–34.
- Motomura H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Island, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183.
- 本村浩之・原崎 森. 2019. 屋久島初確認のアカオビハナダイ (ハタ科ハナダイ亜科) および明治時代から現在までに屋久島から確認された魚類の総種数. Nature of Kagoshima, 46: 211–214.
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 12: 1–125.
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 33: 33–114.
- 武藤望生. 2018. フエフキダイ科, pp. 180–185. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013a. オオメメダイ科, pp. 1084, 2042. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013b. ヒラメ科, pp. 1659–1661, 2227. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. セキトリイワシ科, pp. 351–357, 1829–

1831. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 中村潤平. 2022. ハタ科, pp. 90–103. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 中村潤平・柏木伸幸・西田和記・堀江 諒・本村浩之. 2024. 鹿児島湾内に位置するかごしま水族館の屋外生物展示水域「イルカ水路」の魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 50: 26–55.
- 西山 肇. 2013. ウロコマツカサ, pp. 22–23. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 大橋祐太・本村浩之. 2011. 大隅諸島以北の鹿児島県におけるカレイ目魚類相. *Nature of Kagoshima*, 37: 71–118.
- Okamura, O. 1984. *Narcetes kamoharai* Okamura, pp. 133–135, pl. 83. 岡村 収・北島忠弘 (編) 沖縄舟状海盆及び周辺海域の魚類 I. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 大西 遼. 2025. 三重県二本木町で撮影された水中写真に基づく北限記録のセダカギンボ. *マリンパピリオン*, 54: 6–7.
- 尾山大知・藍澤正宏. 2024. 茨城県那珂湊沖から得られた北限記録となるウミテングの稚魚. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 50: 56–58.
- 尾山大知・藍澤正宏. 2025. 駿河湾から得られた北限記録のタナバタウオ科魚類フチドリタナバタウオ. *Kuroshio Biosphere*, 22: 1–2.
- Oyama, D., R. Aonuma, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025. Report on specimens of seamoths (Gasterosteidae: Pegasidae) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. *The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports*, 139: 25–30.
- Randall, J. E. and D. W. Greenfield. 1996. Revision of the Indo-Pacific holocentrid fishes of the genus *Myripristis*, with description of three new species. *Indo-Pacific Fishes*, 25: 1–61.
- 笹木大地. 2025a. キンセンイシモチ, p. 148. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 笹木大地. 2025b. テンジクガレイ, p. 214. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 笹木大地. 2025c. オオアカムツ, p. 378. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 佐藤圭一・金子篤史・高岡博子・東地拓生・宮本 圭・比嘉俊輝・中島遥香. 2023. 美ら海トワイライトゾーン 知られざる深海生物のワンダーランド. 産業編集センター, 東京, 271 pp.
- Sazonov, Y. I. 1998. A brief review of the genus *Narcetes* (Alepocephalidae) with a description of the genus type *N. erimela*. *Journal of Ichthyology*, 38: 491–500.
- Sazonov, Y. I. and A. N. Ivanov. 1980. Slickheads (Alepocephalidae and Lep- tochilichthyidae) from thalassobathyal zone of the Indian Ocean. *Deep sea fishes of the Indian Ocean. Trudy Instituta Okeanologii Imeni P.P. Shirshova*, 110: 7–104. (In Russian with English summary)
- 瀬能 宏. 2013a. ウミテング科, pp. 608, 1906. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2013b. ヨウジウオ科, pp. 615–635, 1909–1913. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2013c. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Shakhovskoy, I. B. and N. V. Parin. 2024. A review of the flying fish genus *Cypselurus* (Beloniformes: Exocoetidae). Part 3. Revision of the subgenus *Cypselurus* sensu stricto with descriptions of one new species and four new subspecies and reinstatement of *Cypselurus crockeri* Seale and *Exocoetus socotranus* Steindachner. *Zootaxa*, 5473: 1–125.
- 渋谷駿太・前川隆則・桜井 雄・本村浩之. 2022. フェフキダイ科 *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 キツネフェフキの新参異名とされていた *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867 タチガミフェフキ (新称) の有効性と再記載. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 50–66.
- 島田和彦. 2013a. フェダイ科, pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013b. フェフキダイ科, pp. 960–968, 2014–2017. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013c. ペラ科, pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田善隆・河野光之. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重の海産魚類. 鳥羽水族館, 鳥羽. 297 pp.
- 武内 俊. 2025a. ハチジョウアカムツ, p. 378. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 武内 俊. 2025b. オオクチハマダイ, p. 379. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑. 木村清志, 伊勢.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学, 49: 107–118.
- 田城文人・小倉良仁・甲斐嘉晃. 2015. ガンゾウビラメ属魚類 5 種の若狭湾からの記録および日本海における分布域の再検討. 日本生物地理学会会報, 70: 43–53.
- 田代郷国. 2014. ハワイウツボ, p. 27. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 田代郷国. 2022. ウミテング科, pp. 50–51. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 田代郷国・古橋龍星. 2022. ペラ科, pp. 194–213. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 田代郷国・山田守彦. 2022. ヨウジウオ科, pp. 54–59. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 和田英敏. 2022. イットウダイ科, pp. 47–48. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 和田英敏・棟方航平・手良村知功・前田達郎・松山尚樹・西川士朗・本村浩之. 2025. 御蔵島産魚類目録. *Mikurensis*, 14: 5–54.
- 吉田朋弘. 2013. オニイシモチ, pp. 134–135. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編) 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2014. フチドリタナバタウオ, p. 178. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2017. テンジクダイ科, pp. 129–135. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科, pp. 113–142. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘. 2022. テンジクダイ科, pp. 106–113. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island—A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. 比和科学博物館研究報告, 59: 127–203.